



気の毒



川崎ゆきお

「今年はどうでした」

「現状維持ですよ」

「ほう」

「例年より目減りしていますがね」

「今年の目標は達せられそうですか」

「それなんですよ」

「どうでした」

「一年の計は元旦にありで、毎年願掛け、いやいや、願い事じゃなく、神頼みではなく、今年は、これこれをする。こういうことをやっていく……などの目標を作っていたんですが、今年は辞めました。これが毎年年末になるとプレッシャーでねえ。まあ、年末から始めても、もう遅い。やるべきことをやっていないことが年末一斉に襲ってくるのです。これは元旦の一年の計がいけない。あれを今年は辞めたおかげで、悠々と年末を過ごせています」

「それで現状維持ですか」

「十分です。結局正月に決めたことができた年がない。だから自分でプレッシャーを掛けて苦しむだけです。そちらの方の副作用の方が大きい。それで年末近くから始めて、忙しく過ごし、結局時間がなくて、何もできなかつたって事になります。この間、体調も悪い。だから、マイナスになってましたよ」

「一つの意見ですね」

「それでなくてもその前の年は体調が悪くてねえ。目標どころじゃなかった。朝、無事に目を覚ませただけでも御の字のような年でしたよ。食べて寝るだけで一杯一杯。それに比べると、今年はよくやった方ですよ。しかし、例年通りの出来ですがね。だから現状維持で十分」

「今年やり残したこともあるでしょ」

「だから、計を立てていないので、やり残しも積み残しありませんよ。ただ、思う通りに行かなかったことも多々ありますが」

「多々」

「でも、それは来年のお楽しみにとっておきます」

「高い目の目標を作って、それに向かい、結局達成しなかったとしても、結構いい仕事をしていた、ということがあるでしょ」

「ありますが、やはり目標は達成しないとだめでしょ。私はそういう性分です。百点を目標にして六〇点より、目標を作らないで四十点でもいいのです」

「ほう」

「特に頑張らなくても取れる点数でね」

「僕は今年の目標が」

「達成できないのでしょ。それで忙しいのでしょ」

「まあ、そうですが、あなたの倍の成果は出しているはずですよ」

「そんなに急いで何処へ行く、ってやつですよ」

「まあ、あなたとは馬が合わないので、この話はやめましょう。僕は怠け者にはなれません」

「私、怠けていませんよ」

「ああ、それは失礼」

「しかし、まあ、体が資本ですからなあ。体調を崩せば、何もできない。そのリスクを考えると、無理をするのも考え物です。成果は上がるかもしれませんがね」

「いえいえ、まあ、それはそれ」

「そうですねあ、お互いこの年で、まだ仕事をしている。それだけでも十分でしょ」

「あなたと話していると気が楽になりますが、どうも張り切って頑張ろうという気が起きなくなります」

「毒ですよ。毒」

「気の毒というやつですか」

「毒も薬になりますから、まあ、気楽にやりましょうよ」

「しかし、僕は頑張りますよ。今年目標にできるだけ近づくように、大晦日まで」

「はい、お大事に」

了